

日本骨髄バンクの現状（平成 18 年 6 月末現在）

	5 月	6 月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,534	3,152	251,040	317,216
患者登録者数	184	180	3,286	20,825
骨髄移植例数	69	104	-	7,492

20 歳未満のドナー登録者数
6 月 206 人
合計 3,398 人（17 年 3 月～）
51 歳以上のドナー登録者数
6 月新規 99 人
延長 171 人
合計 3,834 人（17 年 9 月～）

注）数値は速報値のため訂正されることがあります。

1 ドナー登録 25 万人を達成

平成 4 年（1992）1 月のドナー登録受け付け開始から、14 年 6 ヶ月でドナー登録者数が 251,040 人に達したことに伴い、7 月 7 日にプレスリリースを行いました。また、7 月 5 日には骨髄移植例数が累計で 7500 例となりました。月間の移植例数は、これまで今年の 3 月の 100 例が最多でしたが、6 月は 104 例となり過去最高を更新しました。ドナー登録者の方々をはじめ、関係者の皆様のご理解とご協力に心から感謝いたします。

また、今月のマンスリーレポートから都道府県別登録者数の表（4 ページ）を変更しました。この表はドナー登録年齢が 18 歳から 54 歳までに変更された事に伴い、目標数を設定し、登録目標 30 万人に対する達成率を算出しました。

2 平成 17 年度の事業報告と決算報告が可決承認

6 月 30 日に開催された第 31 回通常理事会、評議員会において、平成 17 年度の事業報告と決算報告が原案どおり可決承認されました。

事業報告によると、骨髄バンクを介した移植件数は、平成 15 年度は 737 例、16 年度は 851 例、17 年度は 908 例と大きく増加しています。また、患者登録から移植までのコーディネート期間の中央値は、15 年度は 176 日、16 年度は 164 日、17 年度は 150 日と短縮されています。また、ドナー側からみると、ドナーコーディネート開始から骨髄採取までの期間の中央値は、平成 17 年度は 124 日で、迅速コースでは 97 日（各行程の計）となっています。これは、ドナーの方をはじめ、調整医師・採取施設等、多くの関係者のご協力によるものであり、心から感謝申し上げます。

一方で、財団では、業務量の増加およびコーディネートの迅速化や高度化に伴い、コーディネート業務のマンパワー確保や事務局の執務スペースの確保の問題への対応が必要となっています。また、骨髄採取の受け入れをスムーズにするために、5 月には厚生労働省健康局疾病対策課臓器移植対策室長から骨髄採取施設長宛に対して非血縁者間骨髄採取の実施に関する協力依頼が送付されました。さらに、造血幹細胞移植全体の増加に伴い、医師の不足が指摘されています。そこで今後、コーディネート業務における調整医師の役割を見直し、多忙な先生方の負担を少しでも軽減するための施策を検討していく予定です。

財団としては、今後さらにコーディネート期間短縮の取り組みを進めてまいります。骨髄採取の受け入れの確保など財団だけでは解決できない問題もあります。関係者の皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

3 組織運営検討会議から答申が出されました

昨年、新聞等のメディアやボランティア団体から財団の組織運営、職員の退職、患者負担金等の問題点が指摘されました。当財団では、組織運営上の問題を洗い出し、その改善策を検討するため、組織運営検討会議を設置し検討を重ねました。その答申では、職員の定着率の低さに注目し、原因のすべてを組織運営の問題とはできないものの、長期に継続して働くことのできない阻害要因として、職員の意識転換の遅れ、財団運営に対する外部との意思疎通の不足、人事・給与制度の問題、の3点を挙げ、それぞれの対応策が示されました。

その中で、財団運営に関する関係者との意思疎通の強化策として、関係者とのコミュニケーションの強化と財団としての適切な意思表示が必要とされました。

財団が効率的で安定した組織を作り上げ、将来にわたって患者救命に資する活動を継続するためには関係者のご協力が不可欠であり、よりよい協力関係を築くためには、相互に理解と信頼を得ていく必要があります。これまでの運営に関して十分でなかった点は率直に反省するとともに、関係者の方々と意見交換を行っていきたいと考えております。

4 巨人軍原監督、上原投手がドナー登録

読売巨人軍の原辰徳監督に続いて、上原浩治投手がドナー登録を行いました。また、読売巨人軍は骨髄バンク応援プロジェクトの一環として、東京ドームの入口前広場のG-KINGやゲート内で骨髄バンクキャンペーンを行っています。G-KINGでは、イベントの合間に骨髄バンクに関するトークを行い、G-バンドの紹介と販売（収益金は骨髄移植推進財団へ寄付）を行っています。

5 国際協力の現状・バンクを介しての2回提供者・DLI状況

1) 国際協力の現状

		2006.4～6				～2006.6末
海外ドナーから国内患者へ		登録患者数	全抗原適合*	コーディネーター数	移植数	累計移植数
NMDP(米国)	日本	7	4	7	0	106
BTCSCC(台湾)		9	6	5	1	23
KMDP(韓国)		8	3	3	0	11
計						140
国内ドナーから海外患者へ		登録患者数	全抗原適合*	コーディネーター数	提供数	累計提供数
日本	NMDP(米国)	27	18	27	1	8
	BTCSCC(台湾)	0	0	0	0	0
	KMDP(韓国)	53	39	35	0	118
	その他の国**	—	—	—	0	19
計						145

* 1人でも適合したドナー候補者が見つかった患者の数。

** その他の国と地域は累計のみ掲載します。提供内訳は香港6件、英国2件、オランダ1件、オーストラリア1件、ブラジル2件、ドイツ2件、ベルギー2件、カナダ1件、シンガポール1件、フランス1件。

2) 骨髄バンクを介して2回提供された方(累計数) 303人

3) DLI(ドナーリンパ球輸注)療法の実施件数(累計数) 185件

6 財団の会議開催予定

傍聴をご希望の方は、事前に財団事務局総務部までお申し込みください。

	公開・非公開	開催予定	
倫理委員会	公開	7月18日(火) 17:30～19:00	廣瀬第1ビル2階会議室
常任理事会	公開	7月19日(水) 17:00～19:00	廣瀬第1ビル2階会議室
臨時理事会・評議員会	公開	7月26日(水) 17:00～18:45	廣瀬第2ビル地下会議室